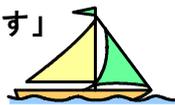




小値賀物語



令和2年5月28日発行

小値賀町立 小値賀中学校 校長 池田英二

① 求めて学ぶ生徒 ② 心を高める生徒 ③ たくましい生徒

新型コロナウイルス感染症の予防のための臨時休業を終え、5月11日（月）から通常日課で授業が再開されることになりました。元気いっぱいの子どもたちに接すると、私たち教職員も元気になります。授業も部活動も通常通り再開して、子どもたちも教職員も意欲的な活動を続けています。それでは、最近の学校の様子をお伝えしたいと思います。



交通安全教室

5月13日（水）に、交通安全教室を開催いたしました。例年は、駐在所や交通安全協会からのご指導の後、自転車点検をしていたのですが、本年度は、新型コロナウイルス感染症の予防のため、派遣指導も受けられなかったため、担当の黒崎先生が、グラウンドに自転車の「運転技能チェックコース」と「安全運転確認コース」を作成し、実際の場面を想定した交通安全教室を実施しました。

「運転技能チェックコース」では、8の字コース、スラロームコース、減速直線コースの3つを設定して、各自の運転技能の確認をしました。自転車は、歩行者よりも強く、自動車よりも弱いため、交通事故の加害者にも被害者にもなる可能性があることに注意して、これからも安全に走行してほしいと思います。あわせて、本年度も誰一人、交通事故に遭わないように、「自分の命は自分で守る」ことを意識して、特に視界が悪くなる夕暮れ時と夜間の交通事故には十分気をつけるように指導しました。

自転車点検では、今年度も福崎モータース社長 福崎 文雄様に、ご協力をいただきました。いつも快く引き受けてくださり、たいへん感謝しています。ありがとうございました。



生徒会役員と校長の「生徒会を語る会」

5月15日（金）に、生徒会役員3名（会長 副会長 庶務）と校長の意見交換会「生徒会を語る会」の第1回目を実施して生徒会役員執行部が感じている本校の課題を確認しました。



【生徒会長より】

・自分たちが目指している学校は、「生徒一人一人が明るく元気に楽しく生活できる学校」「積極性があふれていて、反応、返事がしっかりとしてきている学校」「心を一つにして、何事にも取り組む学校」「個性を生かせる学校」です。

・値中生に足りないところは、「先生方にはあいさつをするけれど、先輩にはあまりしない」「積極性がなく、反応、返事が不十分」「自信がもてず、一人では行動できないことがある」ところです。

・値中生の良いところは、「あいさつがで

る 活発 礼儀正しい 何かをすることになったら一生懸命にする など」です。

【生徒会副会長より】「どのような学校にしたいか」

私は、選挙の時も話したように、積極的な学校にしたいと思っています。小値賀中学校の生徒は、自分から積極的に行動できていないと思うからです。例えば、集会の時には、先生方から「わかる人？」と訊かれても、数人しか手を挙げていなかったり、返事をするときも誰かがしてから返事をしたりする人もいるから、そこを直したいと思っています。そのために、私がまずお手本になって、積極的に行動します。そうすると、皆がついてきてくれると思うので、実践して、全員が積極的になって欲しいと考えています。

【生徒会庶務より】「どのような学校にしたいか」

私は、みんなが積極的に行動できて、自分の意見を伝えられる生徒が多い学校にしたいです。積極的に行動する生徒は、値中にもたくさんいると思います。まわりを見て、手伝いに行ってくれる人、授業などで積極的に発表してくれる人などです。でも、私は、これらを行っている人は、同じ人が多いのではないかと思います。だから、一部の生徒だけではなく、値中生徒全員が積極的に行動するようになってほしいです。普段の私たちの生活には、意見を言い合う場がたくさんあります。このような時、自分の思っていること、意見を相手に伝えられるようになってほしいです。言うには勇気がある人もいるかもしれませんが、自分が何を思っているのか、しっかりと伝えることで、自分とは違った意見を見つけることができることもあります。だから、自分の意見を伝えられる生徒が多くなってほしいと思います。

【校長より】生徒会役員3名の思いがしっかりと伝わるとても有意義な「生徒会を語る会」になりました。ありがとうございました。今回、小値賀中の課題もはっきりしましたので、課題の解決のために、生徒会として何ができるのかについて、今後しっかりと考えて、実践していきましょう！

ちょっといい話

松下幸之助氏は、病弱であったため、自ら先頭に立って仕事を進めることが難しく、結果として人を信頼し、思い切って仕事を任せざるを得なかった。また、創業当時の松下電器は無名の中小企業であり、有能な人材を獲得するのも難しかった。それだけに、人材の育成にはことのほか努力を払ってきた。その体験を踏まえて、松下幸之助氏はこう言っている。「ただの石をいくら磨いてもダイヤモンドにはならない。しかし、ダイヤモンドの原石は磨くことによって光を放つ。しかもそれは、磨き方いかん、カットの仕方いかんでさまざま異なる燦然とした輝きを放つのである。私は、人間というものはそれぞれに磨けば光る、さまざまな素晴らしい素質をもったダイヤモンドの原石のごときものだと思う。とくに経営に携わる人は、このことを正しく認識し、一人一人の持ち味をどう活かすかを考え、実践していくことが大切である」こうした認識をもてるかどうか。それが人材育成の一つのポイントである。



